



人と人との出会い、そして出会った人々との心の繋がりをひたすら大切に続けた人、それが今回の講師野本三吉先生です。物静かに時に力強く語る、そのお言葉に会場の皆さんの心はあっという間に引き込まれて、気が付くと心の扉が久しぶりに開かれたような、軽やかに浄化されたような、不思議な余韻と感動に包まれた一時間半の講演でした。

先生が掲げる大きな命題「生きることの意味」の模索は、青年時代の生死の境を彷徨う大怪我がきっかけとなりました。辛い後遺症と闘いながら、病床で必死になって考え浮かんできたこと、それは食べることのありがたさと、自分の力で排泄出来るようになった時の大きな感動でした。そして、排泄こそが「生きることの意味」だと実感したそうです。

少しずつ元気を取り戻し、しみじみと友人と語り合う中、もう一つの重要な事गरらに気付きます。人として、この社会で生きていく上でどうしても必要なこと、それが他の人との心の交流を持つことだと。困っている事、悲しんでいる事、悩んでいる事、喜んでいる事、本当に言いたかった事等を話し合うことで、自然に感じ合い理解し合う関係が互いの中に生まれてくる。この関係こそが「生きることの意味」だと直感したそうです。

以来、様々な場所、人が嫌がるような地域で積極的な活動を行いながら、奇跡とも言えるような感動的な人の輪を作り続けているのです。大好きな詩を紹介されました。工藤直子さんの詩「あいたくて」です。

だれかに あいたくて
なにかに あいたくて
生まれてきたー
そんな気がするのだけれど

それが だれなのか なになのか
あえるのは いつなのかー
おつかいの とちゅうで
迷ってしまった子どもみたい
とほうに くらている

